

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。日下小学校では、江ノ電バスと連携し実施しました。
- 日下小学校は、京急本線 屏風浦駅を最寄り駅とし、都心部へのアクセス性が良い地域です。屏風浦駅まで歩くには少し遠い場所にあり、また地域の北にある上大岡駅までバスが繋がっているため、バスを使う子どもも多い地域です。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かた知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成29年11月1日(水)
第1～4校時(8:45～12:10)

【対象】日下小学校
4年生1～3組(77人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知りたい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 屏風浦駅や上大岡駅に繋がるバスも多く、塾や習い事に子どもだけで行ったり、お家の人と一緒に買い物等にお出かけしたり、バスを使う場面もあるとのことでした。
- 成長していく過程の中で「**便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと**」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 普通の路線バスが入るには入口が狭く、道路の擦りつけ勾配がきつかったため、小型バスを使った体験学習となりました。通称「こまわりくん」と呼ばれるこのバスを子どもたちは知っていたようです。普段見慣れたバスを使った経験を通じて、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌で感じてくれたと思います。
- 子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、死角体験で運転席に座ったり、普段はあまり話せないバスの運転手さんと交流したり、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。



小型バス「こまわりくん」(通称)



座学①



座学②



体験学習前のオリエンテーション



バスの前にある死角



後部ドアの車いす体験



小型バス「こまわりくん」は子どもたちにも人気があり、バスの車内を興味深そうに見ていました。運転手さんに質問する子どももいました。

車いすに人を乗せてバスのスロープを登ったり、降りたりするのは、とても力がかかることです。体験後の子どもたちは、大変だった、降りるときに怖かった、と話していました。

